

コロナ禍での母親の希望するケアを取り入れたNICU・GCUでの面会効果の検討

轟 香代子[†] 清水由有子 前田里紗 柳澤真衣
折本菜奈 茂木宏美 筒井志保*

IRYO Vol. 77 No. 4 (227-235) 2023

要旨

【目的】コロナ禍において新生児集中治療室（NICU）・新生児回復室（GCU）入室児の母が主体的に希望するケアを取り入れたことによる効果を知り、今後の面会方法や面会時の看護介入の示唆を得ることを目的とした。【方法】NICU・GCUに入室した児をもつ母親にインタビューガイドを基に半構造的面接を行った。初回インタビュー、希望するケアを実施時の母の言動、退院時インタビューで得られたデータを、母親の心情に焦点をあて分類統合しカテゴリー化し分析した。【結果】対象の母親10名にインタビューを行い、その内容を分析した。初回インタビューでは、272コード、48サブカテゴリー、6カテゴリー、希望するケア実施時では461コード、24サブカテゴリー、6カテゴリー、退院時インタビューでは39コード、7サブカテゴリー、4カテゴリーを抽出した。初回インタビューでは、母児分離による寂しさや孤独、元気に産んであげられなかったことへの罪悪感など、児への申し訳なさが挙げられた。コロナ禍のため希望通りにできないこともあったが、母親の希望するケアを実施することは、コロナ禍においても母の育児に対する主体性を高め、母児愛着形成や育児習得に有効である可能性が示唆された。【結論】コロナ禍による面会制限下においても母親の希望するケアを導入することにより、育児に対する不安が軽減され、医療者の対応への満足へ繋がった。母の抱いている希望を理解した上で、母が主体となってケアに介入できるよう支援することは重要と考えられた。

キーワード 希望するケア, 母児愛着形成, 新生児集中治療室 (NICU), 新生児回復室 (GCU), コロナ禍

はじめに

新生児集中治療室（Neonatal intensive care unit : NICU）や新生児回復室（Growing care unit :

GCU）に入室する児は、点滴治療や酸素療法、経管栄養などの医療的処置が必要な場合が多く、母子分離によって、母親が直接育児に参加しにくい環境であり、親役割を果たすことが難しい状況にある。

国立病院機構高崎総合医療センター 看護部 †看護師

著者連絡先：筒井志保 国立病院機構高崎総合医療センター 看護部 〒370-0829 群馬県高崎市高松町36

e-mail : tsutsui.shiho.re@mail.hosp.go.jp

(2022年11月21日受付 2023年5月22日受理)

An Analysis of Visitation in the Neonatal Intensive Care Unit/Growing Care Unit (NICU/GCU) Incorporating the Mother's Desire into Children's Care during the COVID-19 Crisis.

Kayoko Todoroki, Yuko Shimizu, Risa Maeda, Mai Yanagisawa, Nana Orimoto, Hiromi Motegi and Shiho Tsutsui*
NHO Takasaki General Medical Center, *Corresponding author

(Received Nov.21,2022, Accepted May 22, 2022)

Key words : family-centered care, desired care, mother-infant attachment formation, neonatal intensive care unit (NICU), growing care unit (GCU), COVID-19 crisis